



観光客1,000万人を目前に今一度考えてみる

999万9,000人、2018年度の沖縄県入域観光客が発表されました。今から遡ること2007年、沖縄県の施策として1,000万人の観光客の誘致が掲げられました。当時個人的にはその施策に対し、受け入れ体制の整備、例えば、かつて毎年のようにあった給水制限（断水）の水問題はどうするのだろうか、全国ワーストと言われている那覇市の交通渋滞など、諸問題の解消なしに達成は難しいのではと考えていましたが、そんな心配をよそにインフラ整備は粛々と進められ、問題は一つずつ解決されていきました。国内外に向けてソフト面の集客プロモーションもあって徐々に観光客数を増やし、またLCC便の国内外航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数が増え、増加のスピードも加速しました。今年度は大台を上回る1,030万人を目指すとともに、更なる受け入れ態勢の充実のための那覇空港第2滑走路増設（2020年開港予定）をはじめとするハード面の整備、モノレールの他社IC乗車券（SUICA、PASMOなど）対応などのソフト面の準備も進められているようです。

観光客数の増加に伴い、関連する一連のサービス産業は人手不足の問題があるものの、軒並み好景気であるのに加え、先の公共工事や、民間の宿泊施設、6月末にオープンする大型ショッピングモールなどの建設工事、それに1972年の日本復帰ごろに建設されたコンクリート住宅の塩害老朽化による建屋解体と住宅建設のダブル需要で、建設資材や建設業界も賑わっています。東京商工リサーチの発表によると、2018年の金融業を除く県内上位100社の売上高合計は前年比5.1%増の2兆2,371億2,500万円で、過去最高を更新しています。それらを反映してか、那覇市内では高級車が目につくようになってきましたが、末端までその恩恵を受けるのはまだまだ時間がかかりそうです。

離島の石垣島や宮古島でも似たような状況のようで、クルーズ船の寄港回数的大幅な増加によりインバウンドが増え、殊に宮古島では人口約55,000人余の島に2018年度は国内外合わせて約114万3,000名が来島しました。隣の伊良部島と宮古島を結ぶインスタ映えする伊良部大橋（2015年開通）の影響もあり、船の寄港時にはタクシーがつかまらない、食事処はインバウンドの貸切状態、公共事業や増える来島者の宿泊施設の建設ラッシュも始まり、2,000円の土地が100万円で売買された噂や、建設費の高騰、それに島外・県外からやって来る多数の建設関係者の影響で賃貸アパートが足りなくなり、家賃もこれまでの相場をかなり上回る変更、「宮古島バブル」でジワジワと地元の生活に影響が出てきているようです。これらに拍車をかけるように、かつてのパイロット養成空港だった下地島空港が、「みやこ下地島空港」として3月30日に新たにオープンしたこともあり、混乱はまだ続きそうです。私は15年以上、宮古島を訪れたことはありませんが、当時は美しい砂浜やマリネジャー・世界有数のダイビングスポットを周辺海域に持ち、ゴルフコースも持つ南国のリゾート地で、いい感じの「ゆったり感」があったことを記憶していますが、SDGs（持続可能な開発目標）が日本企業の各方面で取り入れられて久しい現在、宮古島もSDGsの観点から今後いろいろと検討すべきことが多そうです。

賑わっている離島もあれば、変化のスピードがゆるゆるの離島もまだまだ残っていて、令和最初のゴールデンウィークを利用して沖縄本島北部の北西部に位置する離島、伊平屋島（いへやじま）・伊是名島（いぜなじま）の2島、一泊二日の30人規模のツアー旅行に家族で参加しました。両島とも農漁業・観光業がメインですが、それほど規模が大きくはありません。学校も中学校までしかなく、若者のほとんどが職を求め島を出ます。人口も減少傾向にあります。近年は沖縄本島に近いこともあり、新たな観光業として県外の修学旅行生の民泊先として徐々にその数を増やしているようです。伊平屋島には、日本最南端の天照大神の天岩戸の伝説の残るクマヤ洞窟、250年以上を超えるという大木の松「念頭平松」の説明などを、地元出身のシニアガイドさんに説明していただき、また伊是名島では琉球王朝第二尚氏（しょうし）[初代～19代410年間続いた]の始祖、尚円王（しょうえんおう）の出生地で、そのゆかりの史跡の案内・解説を民宿の主人の運転するマイクロバスに乗りながら彼の丁寧な説明で、改めて郷土・琉球王朝の歴史を学ぶことができました。



「伊平屋島の念頭平松」



「伊是名島の尚円王」

両島のアクセス方法として現在は船舶がメインですが、伊平屋島と橋でつながる野甫島（のほじま）に小型機専用の空港計画があり、船で15分の伊是名島との共用で使用することです。波浪の影響で特に冬場が欠航率の高い船舶輸送の代替としての空港で、島民の日常生活につながるものであり、実現してもすぐに観光客が急激に増えることはないと思いますが、今後はその島に合った持続可能な開発・発展であってほしいものです。

沖縄県在住の元ベンチャーサポーター 城間 保

～注目の女性経営者～

一社）全日本らくらくピアノ協会 代表理事で、株式会社PREMUSE代表取締役の光畑浩美様は2016年LED関西（女性起業家応援プロジェクト）のファイナリストであります。その後も多方面でご活躍されており近況をお伺いしました。

『LED関西ファイナリスト—その後の展開—』

Q：3年前にLED関西ファイナリストとされましたが、その後展開された内容をお聞かせ願います。

高齢化社会で課題となっている認知症予防。医学的にも「脳活には、ピアノ演奏が一番！」とされているのですが、音楽業界では、煌びやかなコンクールや発表会・演奏の技術向上が重要視されており、新たに「健康+音楽」としてビジネス構築するのはとても困難でした。

そのような中、幸運にもファイナリスト2期生となりVEC様ほか各企業様から温かいご支援をいただきました。真っ先に行ったことは、健康音楽という『価値創造』。ド・レ・ミと弾くと「3歩（4.2cal）」と表示される世界初・指タップの歩数計を開発。「毎日のウォーキングのように、ゆび運動の脳活ウォーキングを！」と提唱しました。最初は医療・福祉での現場実施、大学との共同研究などを試みましたが上手くいかず試行錯誤。しかし諦めないで指歩数を「右手50歩、左手75歩」などと曲目のところに掲載して脳活効果を伝えると、長寿医学の世界的権威である白澤卓二先生からご推薦の御言葉をいただき、NHK文化センター様、リビング新聞社様など様々な教室で開講出来、楽譜教本も総合卸商社を通して、自社で全国出版できるようになりました。

Q：現在も中高年対象のピアノを中心に「気軽・喜び・集いの音楽！」をテーマに取り組んでおられますが、具体的にどのように取り組んでおられますか。

人生100年時代。事業を安定的に成長させ生涯学習として音楽を提供するために、広告宣伝や営業活動に頼らない「コンテンツ産業化（教育産業化）」に取り組んでいます。例えば、業界の先頭に立ち、未開拓分野と言われる中高年ピアノ指導に関するメソッド（と言っても現場では当たり前の事なのですが、きっちりとした専門知識を言語化すること）で商品・サービス知識を標準化。指導ノウハウをビデオ収録によりオンライン化することで、全国に認定講師が養成され、主婦が先生へと社会的信頼を得る立場に成長できるシステムとなっています。さらに生徒には、普段の演奏を動画撮影してエンターできるグレード認定制度を導入。「90歳を超えても、賞状がもらえる！」という楽しいステップで、生涯学習をサポート。協会としてリアル教室を展開し、株式会社としてオンライン教育や楽譜出版を行い、新規顧客の獲得と既存顧客の学習・成長に繋げています。現在、「らくらくピアノ」楽譜はシリーズ累計9万部を超え、全国40支部：生徒数は推定約6,000名（一般会員約4,000名）、講師は約800名を超えているため、本部会議などはインターネットのZoomを使って進めています。

Q：今後の夢や計画はどのように描いておられますか。

国連が提唱する2030アジェンダ・SDGs4『質の高い教育をみんなに』が実現するよう、引き続き関西SDGsに所属し活動を展開。具体的には、英語訳の楽譜出版によるネットワークの拡大成長。そして高齢化に向けた『健康に繋がる音楽教育』を提供してまいりますと存じます。

一般社団法人全日本らくらくピアノ協会 創設者・代表理事 株式会社PREMUSE 代表取締役 光畑 浩美
ご照会先：info@rakurakupiano.jp
TEL：06-6734-3339 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル8階



＜外国人観光客のリピーターの心をつかむ＞

外国人観光客は一般的に初めて日本に来た時には主だった所を一気に巡ります。しかし、リピーターになると日本独特の素晴らしい景色や文化を求めてやって来ます。それは地方やシャッター化した商店街などにあると考えられます。実際に8割以上がリピーターである台湾人や香港人は地方に向いているのです。中国人も約半数がリピーターとなり、日本全国各地へ行きつづつあります。

私自身も最近地方に行き、感じていることが二点あります。

一点は観光局や自治体の方が積極的に誘致活動に取り組みながらも「こんな田舎に来てもらっても何もないよ」という考え方が現地の方に多いということです。本当はその何もない所に魅力があるのです。

例えば、私の母の実家がある和歌山県の御坊。「りんこう」という愛称で親しまれている紀州鉄道が運行されています。「日本一短い路線」それだけでインパクトがあります。そして、一両編成で田んぼの中、風を切って走っていく。気分爽快です。「タクシーに乗らないで、なんでそんな（りんこう）で来るの？」と地元の人たちには不思議がられます。しかし、私は魅力に取りつかれ、毎回利用しています。

ずっと住んでいると地元の魅力が分からなくなるのです。

もう一点は受け入れ態勢の問題です。いくら地方に魅力があるとはいえ、現状のまま来てもらってもお互いに困惑します。

また、更にリピーターをしてもらうためには、彼らにとって心地良い環境を整える必要があります。

例えば、古民家に泊まって日本の生活を体験したいという場合、床にじかに座る習慣がない中国人にとって畳の上でずっと座って過ごすのは苦痛です。そこで、一工夫が必要になるわけです。ちょっとした対応策を取ることで、誘客に結びつきます。せっかくのビジネスチャンスです。それをつかんで頂くためのお手伝いをさせて頂くことが上海在住10年、中国人と係わって17年の私の使命だと思い、活動しております。

すみれナレッジ 代表 岡部 佳子



(紀州鉄道 りんこう)

＜2019年LED関西・女性起業家応援プロジェクトファイナリスト＞

Q. 実用新案登録済の簡単に着られるのに着姿完璧!三部式 (driccoきもの) はどのような特色がありますか。又driccoの意味も教えて下さい。

A. 三部式「driccoきもの」は短時間（5分）で一人で着ることが出来て、何処から見ても完璧な和服姿です。

簡単に着られて楽な着物を目指して、4年かけて開発し、実用新案登録を取得しました。

三部式のパーツは上衣・下衣・おはしよりの3つに分かれ、着物に付いてるヒモをヒモ通しに入れて前で結ぶので、締め付けもなく着くずれもありません。レンタル料は3,500円（一日）で、着物を購入される場合は洗えるポリ着物は45,000円～、正絹着物8万円～とリーズナブルな価格設定になっております。

店舗には色、柄、小物も豊富に揃えていますので、洋服感覚で簡単に試着して頂くことが出来ます。

又、driccoという企業名は15年前に発足した京小町踊り子隊に由来しています。私も踊り子として参加していましたが、もっと若い人達に着物を広めたいという思いと、踊っても着崩れないところから「おどりこ→どりっこ・dricco」という企業名にしました。



Q. お母様が元KBS京都・アナウンサー、岩崎様もフリーアナウンサーとしてテレビ、ラジオ、イベント司会者等、学生時代からご活躍されています。また、NPO法人京小町踊り子隊第一期生としてイタリア、フランス等海外遠征はじめ着物の普及に尽力されています。今までのご経験をどのように活かされていますか。

A. 現在もアナウンサーをしながら、driccoきものファンを増やそうと頑張っておりますが、着物文化を世間に発信していくことと、アナウンサーとして視聴者の方々へ情報を知らせる仕事とは似ていると感じています。2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2025年の大阪万博をも視野に入れて、この京都から全国各地、日本から世界へと三部式driccoきものを広げていきたいと思っております。

Q. 三部式は各分野で受賞され注目されていますが、今後のビジネスプランや展開を教えてください。

A. 上記でも申し上げました他に京都を訪れる観光客、インバウンドの外国人の方に日本の着物文化の正しい知識と素晴らしさを伝えながら、driccoとしても大きく成長したいと考えています。

そのためには現在は受注生産ですが、今後は見込生産に向けて工場生産や、普通の着物を三部式にリニューアルする事業も来年度からスタートする予定です。

又、縫製メンバーも洋裁経験者の方、子育て中のママさん、介護者を抱えている方等々在宅で縫製が可能な「女性の働く場づくり」を提供していきます。

「メイド・イン・キョウト」三部式driccoきものは、日本文化を世界へ向けて発信出来る夢が膨らむ商品であり、女性のライフスタイルを変える商品でもありと思っています。洋服ダンスにdriccoきもの、気軽に様々な場所での着物ライフを楽しんで頂きたいです。

株式会社dricco 代表取締役 岩崎 絵美



VEC取材者コメント

どんなシーンにでも、簡単・キレイに着物が着られます。

まずは京町屋の店舗で着物の色、柄、小物のバリエーションの多さに驚かれた後、ご自分のお好きなdriccoの着物姿で京都の町並みを散策されるのもオススメです。着物は物づくりの原点であることを確認しました。

Dricco salon

〒640-8072 京都市中京区六角通麩屋町東入八百屋106 SPACE106奥「蔵」 TEL:090-9701-3879

～VEC関西より～

・我々日本人のDNAには旅する憧れみたいなものが刷り込まれているように思います。江戸時代からの参勤交代やお伊勢参り等の神社仏閣巡り。今京都の町も中国人や白人の皆さんも中には着物を着て楽しそうに歩いている姿も多数拝見します。京都の花街、祇園や先斗町も狭い小道を通るのが大変です。ただ旧花街は「いちげんさん」お断わりの店が多く気の毒に思います。日本料理はご存知のように材料によって値段もピンキリで紹介なしではほとんどの店が入口で断られてしまいます。予算その他を話して、ホテルなどからの紹介を貰ってゆかないと折角の楽しい旅もいい思い出を持ってないで帰ることになりそうです。(本田)

・先日「大阪水上タクシー」に乗せて頂く機会があり、初めてのクルーズ体験をしました。水上から見る大阪の景色が普段と全然違って楽しかったです。改めて大阪って「水都」と言われるくらいに川で繋がっているんだなと感じました。ワインも少々飲んでリッチな気分を味わわせて頂きました。(藤本)

・先日TVで「ビタミンカラー」で元気になる!というテーマでビタミンカラーの果物等を使ってパティシェが作ったスイーツを紹介されている番組を観て、その配色から瑞々しさだけでなくなぜか自分の気分が奮い立たされました。

「ビタミンカラー」とは柑橘系の鮮やかな黄色、オレンジ、緑色といったこれから健康的なイメージで夏本番を迎えるにはうってつけのカラーです。今年の夏は、ビタミンカラーでスイーツ、ファッション、インテリア等で一度楽しまれてはいかがでしょうか。色からのパワーをもらえるかも・・・(濱本)

・関西は6月のG20に続き9月からはラグビーワールドカップが東大阪花園ラグビー場と神戸で開催されます。そして、4年毎に開催されているワールドマスターズゲームズ2021関西がアジアで初めて2021年5月に関西各地域にて開催されます。その後IR、2025年大阪万博開催と大型プロジェクトが続きますので女性とベンチャーの活躍も期待されています。7月号は注目されている女性経営者からと沖縄の観光事業等についてご寄稿頂きました。今後も注目願います。(澤村)

＜交流会の予定＞

2019年9月13日(金) 株式会社エアロロジーラボ
代表取締役 CEO 谷 紳一 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293